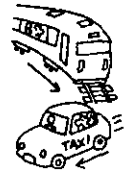













第4章 運動 (4) 歩行および移動 (1)
 (交通機関や手段の利用(d470))

		0:困難なし	1:軽度の困難	2:中等度の困難	3:重度の困難	4:完全な困難	8:詳細不明	9:非該当	この方にとって、更に詳しいアセスメントが必要と思われる重要な項目の場合、○をつける	
障害のハート表現		0-4%	5-24%	25-49%	50-95%	96-100%				
おおまかな統一イメージ		なし無視できる	わずかな	中程度の	高度の、	全くの	判定できない場合	判定の対象外		
d470	交通機関や手段の利用 移動するために、乗客として交通機関や手段を用いること。例えば、自動車、バス、人力車、ミニバス、動物あるいは動物の力による乗り物に乗ること。また、私的なあるいは公共のタクシー、バス、電車、路面電車、地下鉄、船や飛行機に乗ること。		112	120	171	251	809	73	14	26
	交通機関を使って自分で目的地に行きます									
d4700	人力による交通手段の利用 乗客として、1人あるいは2人以上の人力による交通手段を利用して移動すること。例えば、人力車や手こぎ舟に乗ること。		24	14	17	45	186	29	1235	1
	人力による交通機関を利用しています									
d4701	交通手段の私的利用 乗客として、地上、海上、空中を移動すること。私的な動力付きの乗り物に乗って移動すること。例えば、タクシー、自家用の飛行機、船に乗客として乗ること。		227	199	259	304	512	38	11	21
	タクシーや家族の運転する車で移動します									
d4702	公共交通機関の利用 乗客として、地上、海上、空中を移動すること。公共交通のための動力付きの乗り物に乗って移動すること。例えば、バス、電車、地下鉄、飛行機に乗客として乗ること。		97	109	166	304	784	79	11	12
	公共交通機関を利用して外出します									

第4章 運動 (4) 歩行および移動 (2)
 (運転や操作(d475)) (交通手段として動物に乗ること(d480))








		0:困難なし	1:軽度の困難	2:中等度の困難	3:重度の困難	4:完全な困難	8:詳細不明	9:非該当	この方にとって、更に詳しいアセスメントが必要と思われる重要項目の場合、○をつける	
障害のハザード表現		0-4%	5-24%	25-49%	50-95%	96-100%				
おおまかな統一イメージ		なし無視できる	わずかな	中程度の	高度の、	全くの	判定できない場合	判定の対象外		
d475	運転や操作 乗り物や乗り物を引く動物を操作して動かすこと。自分の意志に基づいて移動すること。自動車、自転車、ボート、動物の引く乗り物といったあらゆる形式の交通手段を操作すること。		23	9	17	59	1282	112	48	9
d4750	人力の交通手段の操作 自転車、三輪車、手こぎ舟など、人力に依存した乗り物を操作すること。		15	14	21	75	1283	99	43	7
d4751	動力付きの交通手段の運転 自動車、オートバイ、モーターボート、飛行機などの動力付きの乗り物を運転すること。		18	9	10	41	1304	114	54	5
d4752	動物の力による交通手段の操作 荷馬車や馬車など、動物の力に依存した乗り物を操作すること。		2	2	4	20	227	10	1285	1
d480	交通手段として動物に乗ること 馬、牛、らくだ、象などの動物の背中に乗って移動すること。		2	4	4	14	210	9	1307	0

第5章 自己管理 (1)
 (自分の身体を洗うこと(d510))

		0:困難なし	1:軽度の困難	2:中等度の困難	3:重度の困難	4:完全な困難	8:詳細不明	9:非該当	この方にとって、更に詳しいアセスメントが必要と思われる重要項目の場合、○をつける	
障害のパーセント表現		0-4%	5-24%	25-49%	50-95%	96-100%				
おおまかな統一イメージ		なし無視できる	わずかな	中程度の	高度の、	全くの	判定できない場合	判定の対象外		
d510	自分の身体を洗うこと 清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、水を使って、全身または身体の手や足、顔、髪を洗うこと、タオルで拭き乾かすこと。		251	290	374	294	336	0	5	55
d5100	身体の一部を洗うこと 手や顔、足、髪、爪などの身体の一部に対して、水や石鹸、その他のものを用いること。		479	343	287	179	259	0	3	18
d5101	全身を洗うこと 清潔にする目的で、全身に対して水や石鹸、その他のものを用いること。例えば、入浴やシャワー。		227	272	348	307	392	1	3	25
d5102	身体を拭き乾かすこと 洗った後などに、身体の一部あるいは全身を乾かすために、タオルやその他の手段を用いること。		308	271	333	296	337	1	4	21








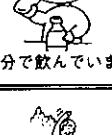
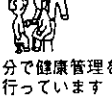
第5章 自己管理 (2)

(身体各部を手入れ(d520) 排泄(d530))






		0:困難なし	1:軽度の困難	2:中等度の困難	3:重度の困難	4:完全な困難	8:詳細不明	9:非該当	この方にとって、更に詳しいアセスメントが必要と思われる重要項目の場合、○をつける	
障害のハート表現		0-4%	5-24%	25-49%	50-95%	96-100%				
おおまかな統一イメージ		なし無視できる	わずかな	中程度の	高度の、	全くの	判定できない場合	判定の対象外		
d520	身体各部を手入れ 肌や顔、歯、頭皮、爪、陰部などの身体部位に対して、洗って乾かすこと以上の手入れをすること。		361	276	279	252	370	9	3	27
d5200	皮膚の手入れ 皮膚のきめと保湿状態の手入れ。例えば、たこや魚の目を取る。保湿ローションや化粧品の使用。		381	249	224	237	430	26	3	4
d5201	歯の手入れ 歯磨き、歯間清掃、義歯や歯科矯正具の手入れなど、歯科衛生上の手入れ。		510	296	229	198	312	2	3	9
d5202	頭髪と髭の手入れ 髪をすいたり整えることや、髭を剃ったり刈り込むなどの頭髪と髭の手入れ。		514	298	202	198	330	4	4	4
d5203	手の爪の手入れ 手の爪を清潔にし、切り、磨くこと。		237	169	204	211	721	4	4	18
d5204	足の爪の手入れ 足の爪を清潔にし、切り、磨くこと。		163	139	189	241	809	5	4	18
d530	排泄 排泄(生理、排尿、排便)を計画し、実行するとともに、その後清潔にすること。		524	206	214	208	394	1	3	18

第5章 自己管理 (3)

(更衣(d540) 食べること(d550) 飲むこと(d560) 健康に注意すること(d570))


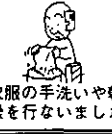



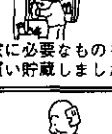
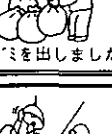

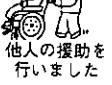
		0:困難なし	1:軽度の困難	2:中等度の困難	3:重度の困難	4:完全な困難	8:詳細不明	9:非該当	この方にとって、更に詳しいアセスメントが必要と思われる重要項目の場合、○をつける
障害のハート表現		0-4%	5-24%	25-49%	50-95%	96-100%			
おおまかな統一イメージ		なし無視できる	わずかな	中程度の	高度の、	全くの	判定できない場合	判定の対象外	
d540	更衣 社会的状況と気候条件に合わせて、順序だった衣服と履物の着脱を手際よく行うこと。  自分で洋服の着替えを行っています	452	239	238	228	388	2	3	37
d5400	衣服を着ること 手際よく、身体のあるべき部位に衣服を着ること。  自分で洋服を着ています	486	264	215	248	333	1	3	11
d5401	衣服を脱ぐこと 手際よく、身体のあるべき部位の衣服を脱ぐこと。  自分で洋服を脱いでいます	500	260	222	232	332	1	3	12
d5402	履き物を履くこと 手際よく靴下やストッキング、履物を履くこと。  自分で靴下を履いています	482	234	193	195	441	2	3	15
d5403	履き物を脱ぐこと 手際よく靴下やストッキング、履物を脱ぐこと。  自分で靴下を脱いでいます	505	265	199	189	397	2	3	13
d5404	適切な衣服の選択 明示されたあるいは暗黙の衣服についての慣例(ドレスコード)や社会的あるいは文化的慣習に従うこと。気候条件に合わせて更衣すること。  自分で適切な服を選んでいきます	498	246	195	193	409	5	4	7
d550	食べること 準備された食べ物を手際よく口に運び、文化的に許容される方法で食べること。  自分で食べています	365	243	117	57	165	0	3	11
d560	飲むこと 文化的に許容される方法で、飲み物の容器を取り、口に運び、飲むこと。  自分で飲んでいます	966	239	118	49	173	2	3	12
d570	健康に注意すること 身体的快適性や健康を確保し、あるいは身体的かつ精神的な安寧を確保すること。  自分で健康管理を行っています	396	230	234	175	473	37	5	9

第6章 家庭 (1)
 (必需品の取得d610-d620) (家庭生活上の課題d630-d640)




		0:困難なし	1:軽度の困難	2:中等度の困難	3:重度の困難	4:完全な困難	8:詳細不明	9:非該当	この方にとって、更に詳しいアセスメントが必要と思われる重要項目の場合、○をつける	
障害のハート表現		0-4%	5-24%	25-49%	50-95%	96-100%				
おおまかな統一イメージ		なし無視できる	わずかな	中程度の	高度の、	全くの	判定できない場合	判定の対象外		
d610	住居の入手 家やアパート、その他の住居を購入あるいは賃貸し、家具調度を整えること。		103	38	68	106	906	264	62	7
d620	物品とサービスの入手 日々の生活に必要な全ての物品とサービスを選択し、入手し、運搬すること。例えば、食料、飲み物、衣服、清掃用具、家庭用品、用具、台所用品、調理用品、家庭用器具、道具を選択し、入手し、運搬し、貯蔵すること。		152	111	153	170	792	133	39	9
d630	調理 自分や他人のために、簡単あるいは手の込んだ食事を計画し、準備し、調理し、配膳すること。例えば、献立を立てること。飲食物を選択すること。食事の材料を入手すること。加熱して調理すること。冷たい飲食物を準備すること。食べ物を配膳すること。		111	76	101	172	964	89	37	22
d6300	簡単な食事の調理 自分や他人のために、簡単あるいは手の込んだ食事を計画し、準備し、調理し、配膳すること。例えば、献立を立てること。飲食物を選択すること。食事の材料を入手すること。加熱して調理すること。冷たい飲食物を準備すること。食べ物を配膳すること。		132	86	118	171	917	89	37	15
d6301	手の込んだ食事の調理 多数の材料を用いて、手の込んだ方法で準備や配膳をするような食事を計画し、準備し、調理し、配膳すること。例えば、フルコースメニューを計画すること。皮をむいたり、スライスしたり、混ぜたり、こねたり、かきまぜる行為を組み合わせてることにより食材を加工すること。		45	59	77	157	1077	98	37	12

第6章 家庭 (2)

(家庭生活上の課題d630-d640) (家庭用品の管理及び他人への援助d650-d660)

		0:困難なし	1:軽度の困難	2:中等度の困難	3:重度の困難	4:完全な困難	8:詳細不明	9:非該当	この方にとって、更 に詳しいア セスメント が必要と思 われる重要 項目の場 合、○を つける
障害の ハザード表現		0-4%	5-24%	25-49%	50-95%	96-100%			
おおまかな 統一イメージ		なし 無視でき る	わずかな	中程度の	高度の、	全くの	判定でき ない場合	判定の 対象外	
d640	家事 家の掃除、衣服の洗濯、家庭用器具の使用、食料の貯蔵、ゴミ捨てによる家事の管理。  自分で家事を行ないました	84	105	167	195	883	80	36	25
d6400	衣服や衣類の洗濯と乾燥 衣服や衣類を手で洗濯し、空中に掛けて乾かすこと。  衣服の手洗いや乾燥を行ないました	112	109	141	187	890	77	34	7
d6401	台所の掃除と台所用具の洗浄 調理後の後片づけ。例えば、湯皿や鍋、調理道具を洗うこと。調理をしたら、食事場所のテーブルと床を掃除すること。  調理後の後片づけを行ないました	105	111	154	201	871	73	35	9
d6402	居住部分の掃除 家族の居住部分の掃除。例えば、整理したり、掃除したり、床を掃いたり、雑巾がけをしたりすること。  居住部分の掃除を行ないました	74	100	162	227	881	71	35	12
d6403	家庭用器具の利用 あらゆる種類の家庭用品器具を使用すること。例えば、洗濯機、乾燥機、アイロン、掃除機、血洗い機を使用すること。  洗濯機や掃除機を利用しました	79	105	141	185	929	77	34	10
d6404	日常必需品の貯蔵 日々の生活に必要な食料、物、飲み物、衣服、その他の家庭用品を貯蔵すること。  家に必要なものを買い貯蔵しました	111	104	125	189	897	86	38	7
d6405	ゴミ捨て 家庭のゴミを捨てること。例えば、家の周りのゴミやくずの集積、始末するゴミの準備、ゴミ処理機の使用、ゴミの焼却。  ゴミを出しました	91	85	145	193	922	78	36	5
d650	家庭用品の管理 家庭用品およびその他の個人用品を維持し、補修すること。その家庭用品等には、家とその内部、衣服、乗物、補助用具や、植物と動物の世話を含む。  家庭用品の修理や管理をしました	49	61	133	179	1002	90	36	13
d660	他人への援助 家の内外において、学習、コミュニケーション、セルフケア、移動について、家族や他人を援助すること。家族や他人の安寧を気遣うこと。  他人の援助を行いました	101	114	152	162	916	72	33	10

第7章 対人関係
 (一般的な対人関係d710-d720) (特定の対人関係d730-d770)

		0:困難なし	1:軽度の困難	2:中等度の困難	3:重度の困難	4:完全な困難	8:詳細不明	9:非該当	この方にとって、更に詳しいアセスメントが必要と思われる重要項目の場合、○をつける	
障害のハート表現		0-4%	5-24%	25-49%	50-95%	96-100%				
おおまかな統一イメージ		なし無視できる	わずかな	中程度の	高度の、	全くの	判定できない場合	判定の対象外		
d710	基本的な対人関係 状況に見合った社会的に適切な方法で、人々と対人関係をもつこと。例えば、適切な思いやりや敬意を表明すること。思いやりや他人の気持に対応すること。		413	281	296	265	267	22	6	29
d720	複雑な対人関係 状況に見合った社会的に適切な方法で、他の人々と対人関係を維持し調整すること。		338	257	282	284	351	33	5	25
d730	よく知らない人との関係 道を尋ねたり、物を買うというような、ある特定の理由があって、一時的に見慣れない人と接触したり、遭遇すること。		354	263	286	265	328	48	6	9
d740	公的な関係 公的な状況において、雇用主、専門家、サービス提供者などとの特定な関係の構築と維持。		377	243	237	232	384	71	6	6
d750	非公式な社会的関係 他の人々との関係に加わること。例えば、同じコミュニティあるいは居住区に住んでいる人々、同僚、友、遊び仲間、類似した経歴あるいは職業を持つ人々との一時的な関係。		342	239	238	233	391	98	9	15
d760	家族関係 血族や親類関係の構築と維持。例えば、核家族、大家族、里子を持つ家族、養子をもつ家族、義理の家族。またいとこや法的後見人といった、さらに遠縁の関係。		669	357	204	88	92	94	46	9
d770	親密な関係 個人間の親密な関係あるいは恋愛関係の構築と維持。例えば、夫と妻、恋人同士、性的パートナー同士。		275	104	57	32	67	94	921	5

3. 2. 障害の発生しやすい項目、しにくい項目に関する集計

各項目の障害が発生しやすさ（しにくさ）を明らかにするために、障害発生度を計算し、発生しやすい順番、発生しにくい順番に項目を並べた表を以下に示す。障害発生度は、

$$\text{障害発生度} = (0 \times (0: \text{障害なし件数}) + 1 \times (1: \text{わずかな障害件数}) + 2 \times (2: \text{中程度障害件数}) + 3 \times (3: \text{高度障害件数}) + 4 \times (4: \text{全くの障害件数})) \times 25 / (0 \text{ から } 4 \text{ の合計})$$
 で求められる件数であり、全ケースが0ならば0、全ケースが4ならば100になる。

(a) 身体機能で障害が発生しやすい（と判定された）項目

重い順位	BODY FUNCTIONS	障害発生度	観察数	0 なし 無視で きる	1 わず かな	2 中程 度の	3 高度 の	4 全くの	8 判定で きない 場合	9 判定の 対象外	欠損	要ア セス
1	b660 生殖機能	98	1550	23	3	6	13	1220	228	57	4	3
2	b650 月経機能	77	1553	16	2	1	927	153	451	3	4	3
3	b640 性的機能	66	1550	19	1	3	2	39	66	1420	4	2
4	b770 歩行パターン機能	54	1550	263	306	286	255	422	16	2	4	54
5	b172 計算機能	49	1550	360	294	247	279	337	32	1	4	12
6	b176 複雑な運動を順序立てて行なう精神機能	49	1550	367	265	275	276	329	36	2	4	21
7	b740 筋肉の耐久性機能	49	1550	160	408	449	347	147	39		4	86
8	> b1672 統合的言語機能	46	1550	406	273	298	270	272	31		4	13
9	b730 筋力機能	45	1550	179	461	480	333	78	19		4	85
10	> b1671 言語表出	43	1550	442	280	299	256	245	28		4	20
11	b164 高次認知機能	43	1550	448	272	252	267	243	66	2	4	11
12	b144 記憶機能	42	1550	411	300	321	304	181	32	1	4	44
13	b760 随意的運動反射機能	41	1538	349	399	374	297	118	1		4	46
14	b117 知性の機能	40	1550	489	297	256	262	212	34		4	27
15	b122 一般的な社会心理的機能	40	1550	486	292	270	246	214	41	1	4	23
16	b235 前庭機能	40	1550	389	329	313	202	161	154	2	4	44
17	> b1670 言語受容	39	1550	477	319	280	264	182	28		4	14
18	b720 骨の可動性の機能	39	1550	315	435	463	271	63	3		4	59
19	b260 固有受容覚	38	1550	531	285	235	224	214	60	1	4	24
20	b710 関節可動性の機能	38	1550	326	439	471	262	49	3		4	96

今回の調査対象者が主に高齢者であることから、「b660 生殖機能」、「b650 月経機能」、「b640 性的機能」の障害発生度が高いのは、当然の結果といえる。高齢者のアセスメントと対象となる項目で最も障害発生度が高かったのは「b770 歩行パターン機能」であり、今回の調査対象となって高齢者の8割以上がなんらかの歩行機能の障害があり、3割ちかくの高齢者の歩行機能が、完全に失われている。他に筋・骨格に関する項目が多く含まれ、「b740 筋肉の耐久性機能」、「b730 筋力機能」、「b760 随意的運動反射機能」、「b720 骨の可動性の機能」、「b710 関節可動性の機能」などが障害されやすい項目であることが明らかになった。また運動と関連する「b235 前庭機能」も障害されやすい。

また、「b172 計算機能」、「b176 複雑な運動を順序立てて行なう精神機能」、「言語に関連する機能（b1672 統合的言語機能、b1671 言語表出、b1670 言語受容）」、「b164 高次認知機能」、「b144 記憶機能」、「b117 知性の機能」、「b122 一般的な社会心理的機能」など比較的高度な精神機能も障害されやすい。

障害されやすい項目のトップ20が、「運動・筋・骨格・関節」に関連する項目と、比較的高度な精神機能のみで占められたことは、注目に値する。

(b)身体機能で障害が発生しにくい(と判定された)項目

軽い 順位	BODY FUNCTIONS	障害 発生 度	観察 数	0 なし 無視で きる	1 わず かな	2 中程 度の	3 高度 の	4 全 くの	8 判 定 で き な い 場 合	9 判 定 の 対 象 外	欠 損	要 ア セス
1	b240 聴覚と前庭機能に関連した感覚	9	1550	1086	199	79	41	12	132	1	4	16
2	b520 同化機能	11	1550	981	314	116	23	3	113		4	24
3	b220 目とそれに隣接する構造に関連した感覚	12	1550	1015	299	115	43	7	71		4	10
4	b555 内分泌腺機能	12	1550	846	277	112	26	2	286	1	4	38
5	b515 消化機能	12	1550	980	355	119	29	5	62		4	15
6	b630 尿路機能に関連した感覚	12	1550	1073	196	83	46	50	101	1	4	6
7	b550 体温調節機能	12	1550	1007	343	138	36	4	22		4	12
8	b860 爪の機能	12	1550	1032	323	145	43	5	2		4	1
9	b440 呼吸機能	13	1550	936	365	149	23	3	74		4	37
10	b535 消化器系に関連した感覚	13	1550	938	355	128	30	9	89	1	4	8
11	b445 呼吸筋の機能	13	1550	912	375	138	25	3	97		4	0
12	b450 その他の呼吸機能	13	1550	956	384	132	37	6	35		4	8
13	b540 全般的代謝機能	13	1550	879	329	139	31	5	167		4	37
14	b310 音声の機能	13	1550	1098	228	106	74	38	6		4	24
15	b545 水分・ミネラル・電解質バランスの機能	14	1550	896	348	157	37	2	110		4	29
16	b250 味覚	14	1550	993	270	129	66	19	73		4	6
17	b435 免疫系の機能	14	1550	794	325	153	32	2	243	1	4	24
18	b850 毛の機能	15	1550	963	330	174	65	11	6	1	4	2
19	b610 尿排泄機能	15	1550	934	315	146	52	30	73		4	20
20	b510 摂取機能	15	1550	985	324	140	69	29	2	1	4	31

障害が発生しにくいと判定された項目には、「b240 聴覚と前庭機能に関連した感覚(めまい、耳鳴り等)」、「b220 目とそれに隣接する構造に関連した感覚(眼の疲労感、乾燥感、かゆみ等)」、「b630 尿路機能に関連した感覚(排尿中の灼熱感、および切迫感等)」、「b535 消化器に関連した機能(吐き気、膨満感、腹部の痙攣感等)」などの感覚が多く含まれる。症状がないときは「障害無し」と判定されるので、障害発生度は低くなる。

生命維持と関連の深い「b520 同化機能」、「b555 内分泌腺機能」、「b515 消化機能」、「b550 体温調節機能」、「b440 呼吸機能」、「b445 呼吸筋の機能」、「b450 その他の呼吸機能」、「b540 全般的代謝機能」、「b545 水分・ミネラル・電解質バランスの機能」、「b435 免疫系の機能」、「b435 免疫系の機能」、「b610 尿排泄機能」、「b510 摂取機能」などの項目も障害が発生しにくい(と判断される)項目と言える。これらの項目の多くは、早期の機能低下を判断するためには医学的検査が必要であり、機能低下により症状が出現するときはかなり機能低下が進んでいることが多い項目なので、評価者の観察により障害の程度を判定する今回の調査では、障害の発生度が低くなったと思われる。

また「b860 爪の機能」、「b250 味覚」、「b850 毛の機能」は、機能が低下した場合、本人にとっては大きな問題であることもあるが、第三者的には大きな障害があると判定されにくい項目であることが、障害の程度が低く判定された一因であると思われる。

前述のように「言語に関連する機能(b1672 統合的言語機能、b1671 言語表出、b1670 言語受容)」は障害が発生しやすいが、「b310 音声の機能(音を作る機能)」は、障害が発生しにくい(と判定された)項目である。

(c)活動と参加で障害が発生しやすい(と判定された)項目

重い 順位	ICF コード	ACTIVITIES AND PARTICIPATION	障害 発生 度	観察	0 なし 無視で きる	1 わず かな	2 中程度 の	3 高度の	4 全くの	8 判定で きない 場合	9 判定の 対象外	欠損	要ア セス
1	> d4751	動力付きの交通手段の操作	97	1550	18	9	10	41	1304	114	54	4	5
2	d475	運転	96	1550	23	9	17	59	1282	112	48	4	9
3	> d4750	人力の交通手段の操作	96	1550	15	14	21	75	1283	99	43	4	7
4	> d4752	動物の力による交通手段の操作	96	1550	2	2	4	20	227	10	1285	4	1
5	d480	交通手段として動物に乗ること	96	1550	2	4	4	14	210	9	1307	4	0
6	> d4554	水泳	93	1550	12	7	11	20	341	19	1140	4	0
7	d845	仕事の獲得・維持・終了	89	1550	11	4	12	14	182	92	1235	4	3
8	d840	職業準備	89	1550	9	8	8	13	157	103	1252	4	5
9	> d6301	手の込んだ食事の調理	88	1550	45	59	77	157	1077	98	37	4	12
10	> d4552	走ること	87	1550	26	64	130	197	1078	44	11	4	28
11	> d4553	跳ぶこと	87	1550	30	70	113	211	1071	44	11	4	24
12	d855	無報酬の仕事	87	1550	16	10	16	38	230	89	1151	4	5
13	d850	報酬を伴う雇用	87	1550	15	7	10	24	179	85	1230	4	4
14	> d4304	頭の上に載せて運ぶ	86	1550	34	75	110	254	997	72	8	4	26
15	d650	家庭用品の管理	86	1550	49	61	133	179	1002	90	36	4	13
16	d830	高等教育	85	1550	12	6	10	18	122	113	1269	4	1
17	d610	住居の取得	84	1547	103	38	68	106	906	264	62	4	7
18	d630	調理	82	1550	111	76	101	172	964	89	37	4	22
19	> d4700	人力による交通手段の利用	81	1550	24	14	17	45	186	29	1235	4	1
20	> d6403	家庭用器具の利用	81	1550	79	105	141	185	929	77	34	4	10

まず“活動と参加”の“障害発生度は、”身体機能“の障害が発生度より高い値を示す項目が多いのが、大きな特徴と言える。”身体機能“で障害発生度が80を越える項目は「b660 生殖機能」の1項目(1.2%=1項目/85項目)であるが、“活動と参加”で障害発生度が80を越えるのは25項目(16.4%=25項目/152項目)もある。また障害発生度の平均は、“身体機能”が27.7、“活動と参加”が58.4と大きな開きが見られる。

最も障害されやすい(と判定された)項目は、車や自転車の運転に関わる項目であった。第2位のd475 運転と、この項目の下位項目である「d4751 動力付きの交通手段の操作、d4750 人力の交通手段の操作、d4752 動物の力による交通手段の操作」、d470 交通機関や手段の利用の下位項目である「d4700 人力による交通手段の利用」が上位を占めた。

d455 移動の下位項目である「d4554 水泳」、「d4552 走ること」、「d4553 跳ぶこと」や、「d4304 頭の上に載せて運ぶ」などの筋力・持久力・バランス感覚を要する動作に関する項目も、障害されやすい項目である。

「d845 仕事の獲得・維持・終了」、「d840 職業準備」、「d855 無報酬の仕事」、「d850 報酬を伴う雇用」など、仕事に関する項目や、「d830 高等教育」も上位を占めた。

「d6301 手の込んだ食事の調理」、「d650 家庭用品の管理」、「d610 住居の取得」、「d630 調理」、「d6403 家庭用器具の利用」などの比較的高度な技能や知的判断が必要な家事や生活維持の項目も障害されやすい。

運転のような瞬時の判断を要する項目、筋力・持久力・バランス感覚を要する動作、仕事や高等教育、比較的高度な技能や知的判断が必要な家事や生活維持などが、障害のレベルが高いと判断されることが明らかになった。

(d)活動と参加で障害が発生しにくい（と判定された）項目

軽い 順位	ICF コード	ACTIVITIES AND PARTICIPATION	障害 発生 度	観察 値	0 なし 無視で きる	1 わず かな	2 中程 度の	3 高度 の	4 全 くの	8 判 定 で き な い 場 合	9 判 定 の 対 象 外	欠 損	要 ア セス
1	> d4403	放すこと	21	1550	864	336	173	87	86	2	2	4	11
2	> d4401	握ること	21	1550	834	349	199	79	80	7	2	4	18
3	d560	飲むこと	21	1550	966	239	118	49	173	2	3	4	12
4	d760	家族関係	25	1550	669	357	204	88	92	94	46	4	9
5	d940	人権	25	1550	741	158	110	75	160	292	14	4	31
6	d310	話し言葉のメッセージの理解	26	1550	736	305	267	149	77	14	2	4	20
7	d770	親密な関係	27	1550	275	104	57	32	67	94	921	4	5
8	> d4452	手を伸ばすこと	30	1550	623	380	276	128	136	4	3	4	11
9	> d4400	つまみあげること	31	1550	602	405	263	143	131	4	2	4	23
10	d110	注意してみること	31	1550	637	321	272	198	108	13	1	4	14
11	d330	話すこと	31	1550	648	309	262	205	117	6	3	4	18
12	d115	注意して聞くこと	32	1550	621	314	271	213	117	13	1	4	15
13	> d4450	引きよせること	33	1550	562	349	311	150	150	9	19	4	10
14	d350	会話	33	1550	641	282	247	205	164	8	3	4	30
15	> d4150	臥位の保持	33	1550	588	324	279	164	166	26	3	4	12
16	> d4451	押すこと	34	1550	554	361	300	159	162	8	6	4	8
17	d550	食べること	35	950	365	243	117	57	165	0	3	4	11
18	> d4153	座位の保持	35	1530	560	366	221	150	224	5	4	4	15
19	d440	細かな手の使用	36	1550	488	400	298	183	175	4	2	4	31
20	d315	非言語的メッセージの理解	36	1550	548	299	253	243	168	31	8	4	1

19位の「d440 細かな手の使用」の下位項目である、「d4403 放すこと」、「d4401 握ること」、「d4452 手を伸ばすこと」、「d4400 つまみあげること」、「d4450 引きよせること」、「d4451 押すこと」が上位を占めた。手の細やかな動きは、代表的な障害が発生しにくい（と判定された）項目と言える。

「d560 飲むこと」、「d550 食べること」も障害が発生しにくい（と判定された）項目である。

「d760 家族関係」、「d940 人権」、「d770 親密な関係」も障害が発生しにくい（と判定された）項目と言える。

「d310 話し言葉のメッセージの理解」、「d330 話すこと」、「d115 注意して聞くこと」、「d350 会話」、「d315 非言語的メッセージの理解」、「d110 注意してみること」などのコミュニケーションに関わる項目も障害が発生しにくい（と判定された）項目である。身体機能では、「言語に関連する機能（b1672 統合的言語機能“障害発生度 46”、b1671 言語表出“障害発生度 43”、b1670 言語受容“障害発生度 39”）」は、機能障害が発生しやすい代表的な項目であったが、活動と参加の関連項目の障害発生度は押しなべて低い傾向にあることは注目に値する。この原因は考察の部分で再考を行なう。

「d4150 臥位の保持」、「d4153 座位の保持」という難易度の低い姿勢の保持の項目も、障害が発生しにくい（と判定された）項目と言える。

3. 3. アセスメントが必要と判断された項目

以下に、評価者が更なるアセスメントを必要と判断した回数の多い項目を上位 20 位までを示す。

(a)身体機能で更なるアセスメントが必要と判断された回数の多い項目トップ 20

			障害発生	観察数	0 なし 無視で きる	わず かな	2 中程 の	3 高度 の	4 全 くの	8 判 定 で き な い 場 合	9 判 定 の 対 象 外	欠損	要ア セス メント
1	b710	関節可動性の機能	38	1550	326	439	471	262	49	3		4	96
2	b740	筋肉の耐久性機能	49	1550	160	408	449	347	147	39		4	86
3	b730	筋力機能	45	1550	179	461	480	333	78	19		4	85
4	b720	骨の可動性の機能	39	1550	315	435	463	271	63	3		4	59
5	b770	歩行パターン機能	54	1550	263	306	286	255	422	16	2	4	54
6	b455	運動耐容能	27	1550	546	466	249	136	42	110	1	1	49
7	b735	筋緊張の機能	30	1550	557	407	293	210	57	26		4	46
8	b760	随意的運動反射機能	41	1538	349	399	374	297	118	1		4	46
9	b144	記憶機能	42	1550	411	300	321	304	181	32	1	4	44
10	b235	前庭機能	40	1550	389	329	313	202	161	154	2	4	44
11	b555	内分泌腺機能	12	1550	846	277	112	26	2	286	1	4	38
12	b410	心機能	21	1550	653	449	253	74	8	113		4	37
13	b440	呼吸機能	13	1550	936	365	149	23	3	74		4	37
14	b540	全般的代謝機能	13	1550	879	329	139	31	5	167		4	37
15	b420	血圧の機能	23	1550	594	515	286	95	7	53		4	36
16	b147	精神運動機能	38	1550	439	364	317	247	132	50	1	4	35
17	b430	血液系の機能	17	1550	715	396	178	37	4	220		4	34
18	b415	血管の機能	20	1550	621	448	218	53	4	206		4	33
19	b750	運動反射機能	30	1550	526	422	333	162	55	51	1	4	32
20	b140	注意機能	38	1550	515	320	256	243	183	32	1	4	31

「b710 関節可動性の機能」、「b740 筋肉の耐久性機能」、「b730 筋力機能」、「b720 骨の可動性の機能」、「b770 歩行パターン機能」、「b455 運動耐容能」、「b735 筋緊張の機能」、「b760 随意的運動反射機能」という上位 8 位まで、及び 10 位「b235 前庭機能」、19 位「b750 運動反射機能」という、関節、筋肉、骨、バランス感覚、耐久性などの運動関連の項目が上位 20 位の半分を占めた。

障害発生度で上位を占めた精神機能関連の項目としては、9 位の「b144 記憶機能」、16 位の「b147 精神運動機能」、および 20 位の「b140 注意機能」が入ったのみであり、障害発生度が高い割りに、さらにアセスメントが必要と判断されたケースが少なかった。

11 位「b555 内分泌腺機能」、12 位「b410 心機能」、13 位「b440 呼吸機能」、14 位「b540 全般的代謝機能」、15 位「b420 血圧の機能」、17 位「b430 血液系の機能」、18 位「b415 血管の機能」と、内科系疾患と関わりが深いと思われる項目が続いた。

このように身体機能の項目において、更なるアセスメントが必要と思われる項目は、運動関連の項目が上位を占め、精神機能関連が 3 項目、他は内科的疾患に深く関連する臓器の機能障害が 7 項目選ばれた。

(b)身体機能で更なるアセスメントが必要と判断された回数の少ない項目トップ20

	BODY FUNCTIONS	障害発生	観察数	0なし無視できる	1わずかな	2中程度の	3高度の	4全くの	8判定できない場合	9判定の対象外	欠損	要アセス
1	b445 呼吸筋の機能	13	1550	912	375	138	25	3	97		4	0
2	b860 爪の機能	12	1550	1032	323	145	43	5	2		4	1
3	b640 性的機能	66	1550	19	1	3	2	39	66	1420	4	2
4	b850 毛の機能	15	1550	963	330	174	65	11	6	1	4	2
5	b650 月経機能	77	1553	16	2	1	927	153	451	3	4	3
6	b660 生殖機能	98	1550	23	3	6	13	1220	228	57	4	3
7	b255 嗅覚	16	1550	932	286	146	76	30	80		4	4
8	b156 知覚機能	25	1550	756	295	247	148	71	32	1	4	5
9	b670 性と生殖機能に関連した機能	22	1550	803	66	23	19	209	375	55	4	5
10	b250 味覚	14	1550	993	270	129	66	19	73		4	6
11	b630 尿路機能に関連した感覚	12	1550	1073	196	83	46	50	101	1	4	6
12	b530 体重維持機能	16	1550	893	395	161	59	14	27	1	4	7
13	b450 その他の呼吸機能	13	1550	956	384	132	37	6	35		4	8
14	b535 消化器系に関連した感覚	13	1550	938	355	128	30	9	89	1	4	8
15	b180 自己と時間経験機能	35	1550	617	279	199	216	195	44		4	10
16	b220 目とそれに隣接する構造に関連した	12	1550	1015	299	115	43	7	71		4	10
17	b110 意識機能	20	1550	899	290	167	140	46	8		4	11
18	b164 高次認知機能	43	1550	448	272	252	267	243	66	2	4	11
19	b765 不随意運動反応機能	17	1550	961	287	137	112	35	17	1	4	12
20	b830 その他の皮膚機能	17	1550	844	398	190	83	10	25		4	12

1位「b445 呼吸筋の機能」は、呼吸が止まらなければ機能低下の評価の難しい項目なので、アセスメントの必要性を感じた評価者が0であったと思われる。同様に、12位「b530 体重維持機能」、19位「b765 不随意運動反応機能」は、機能評価が難しい項目であるので、アセスメントの必要と判断されたケースが少ない理由であろう。

2位「b860 爪の機能」、4位「b850 毛の機能」、7位「b255 嗅覚」、10位「b250 味覚」は、機能が低下した場合、本人にとっては大きな問題であることもあるが、第三者的には大きな障害があると判定されにくい項目なので、障害度が低いと判断された項目であったが、更なるアセスメントの必要性でも低いと判断された項目である。13位「b450 その他の呼吸機能」、20位「b830 その他の皮膚機能」等も同様な項目であると思われる。

一方、3位「b640 性的機能」、5位「b650 月経機能」、6位「b660 生殖機能」、9位「b670 性と生殖機能に関連した機能」は、障害発生度の高い項目であるが、アセスメントの必要性が高いと判断される場合が少ないと考えられた。

11位「b630 尿路機能に関連した感覚」、14位「b535 消化器系に関連した感覚」、16位「b220 目とそれに隣接する構造に関連した感覚」は、症状がなければアセスメントの必要性がないので、更なるアセスメントが必要と判断される回数は少なくなったと思われる。

精神機能に関連した項目は、8位「b156 知覚機能」、15位「b180 自己と時間経験機能」、17位「b110 意識機能」、18位「b164 高次認知機能」の4項目が入った。「b156 知覚機能」、「b110 意識機能」は、機能が下がりにくい項目であるので、「b180 自己と時間経験機能」、18位「b164 高次認知機能」は、これらの項目の機能低下を判定するのが難しい項目であるので、更なるアセスメントが必要と判断される回数は少なくなったと思われる。

(c)活動と参加で更なるアセスメントが必要と判断された回数の多い項目トップ20

	ACTIVITIES AND PARTICIPATION	障害発生度	観察	0 なし 無視で きる	1 わず かな	2 中程度 の	3 高度の	4 全くの	8 判定で きない 場合	9 判定の 対象外	欠損	要ア セス
1	> d4101 しゃがむこと	68	1550	124	215	261	293	651	1	5	4	92
2	d450 歩行	65	1550	168	250	251	253	618	5	5	4	75
3	> d4151 しゃがみ位の保持	74	1550	72	184	216	319	748	6	5	4	68
4	d510 自分の身体を洗うこと	53	1550	251	290	374	294	336	0	5	4	55
5	> d4103 座ること	66	1550	155	238	244	283	621	4	5	4	53
6	> d4501 長距離歩行	81	1550	43	115	198	245	915	27	7	4	52
7	d430 持ち上げて運ぶこと	71	1550	82	187	286	317	652	22	4	4	51
8	> d4102 膝立ちすること	68	1550	127	221	251	292	645	9	5	4	51
9	> d4152 膝立ち位の保持	70	1550	118	196	228	300	685	18	5	4	48
10	> d4502 様々な地面あるいは床面上の歩行	80	1550	35	130	218	272	868	20	7	4	46
11	> d4503 障害物を避けての歩行	78	1550	54	135	219	277	831	27	7	4	45
12	> d4104 立つこと	58	1550	218	286	292	273	475	1	5	4	45
13	d240 ストレスとその他の心理学的要求への	52	1550	303	249	251	243	375	125	4	4	41
14	d420 乗り移り(移乗)	38	1550	578	317	203	156	289	2	5	4	40
15	> d4305 物を置く	73	1550	89	148	254	304	721	28	6	4	39
16	d540 更衣	48	1550	452	239	238	228	388	2	3	4	37
17	d920 レクリエーションとレジャー	56	1550	252	216	292	232	418	120	20	4	35
18	d445 手と腕の使用	54	1550	254	302	321	265	387	17	4	4	35
19	d415 姿勢の保持	45	1550	389	323	335	225	270	4	4	4	35
20	d435 下肢を使って物を動かすこと	63	1550	135	265	319	287	520	19	5	4	34

1位「d4101 しゃがむこと」、3位「d4151 しゃがみ位の保持」5位「d4103 座ること」、8位「d4102 膝立ちすること」、9位「d4152 膝立ち位の保持」12位「d4104 立つこと」、14位「d420 乗り移り(移乗)」、19位「d415 姿勢の保持」など、ある姿勢をとる、または維持することに関する8項目が上位を占めた。

また、2位「d450 歩行」、6位「d4501 長距離歩行」、10位「d4502 様々な地面あるいは床面上の歩行」、11位「d4503 障害物を避けての歩行」と歩行に関する項目も、4項目がベスト20に入った。

7位「d430 持ち上げて運ぶこと」、15位「d4305 物を置く」、20位「d435 下肢を使って物を動かすこと」と、物を動かす項目も3項目に入った。

ある姿勢をとる、姿勢維持、歩行、物を動かすという運動に関連した項目が20項目中15項目を占めた。

日常生活動作に関連した項目で更なるアセスメントを必要とする回数が多かったのは、4位「d510 自分の身体を洗うこと(入浴)」、16位「d540 更衣」であり、食事や排泄、あるいは家事に関連する項目が入らなかった。

13位「d240 ストレスとその他の心理学的要求への対処」と17位「d920 レクリエーションとレジャー」という項目が選ばれたのは、注目に値する。

姿勢の保持や歩行等の主に下肢に関連した項目は数多く選ばれたのに対し、上肢関連は18位「d445 手と腕の使用」のみであった。

(d)活動と参加で更なるアセスメントが必要と判断された回数の少ない項目トップ20

	ACTIVITIES AND PARTICIPATION	障害発生度	観察	0 なし 無視で きる	1 わず かな	2 中程 度の	3 高度 の	4 全 くの	8 判 定 で き な い 場 合	9 判 定 の 対 象 外	欠損	要ア セス
1	> d4554 水泳	93	1550	12	7	11	20	341	19	1140	4	0
1	d480 交通手段として動物に乗ること	96	1550	2	4	4	14	210	9	1307	4	0
3	> d4700 人力による交通手段の利用	81	1550	24	14	17	45	186	29	1235	4	1
3	> d4752 動物の力による交通手段の操作	96	1550	2	2	4	20	227	10	1285	4	1
3	d315 非言語的メッセージの理解	36	1550	548	299	253	243	168	31	8	4	1
3	d320 公式手話のメッセージの理解	59	1550	39	24	21	27	68	21	1350	4	1
3	d815 就学前教育	68	1550	30	11	14	16	85	115	1279	4	1
3	d820 学校教育	69	1550	33	8	11	19	88	113	1278	4	1
3	d830 高等教育	85	1550	12	6	10	18	122	113	1269	4	1
10	d340 公式手話によるメッセージの表出	63	1550	35	16	21	17	80	22	1359	4	2
11	d135 反復	42	1550	478	278	261	209	274	39	11	4	3
11	d825 職業訓練	79	1550	17	11	11	26	116	111	1258	4	3
11	d845 仕事の獲得・維持・終了	89	1550	11	4	12	14	182	92	1235	4	3
11	d865 複雑な経済的取り引き	81	1550	51	21	29	38	329	118	964	4	3
15	> d5200 皮膚の手入れ	51	1550	381	249	224	237	430	26	3	4	4
15	> d5202 頭髪と髪の手入れ	42	1550	514	298	202	198	330	4	4	4	4
15	d335 非言語的メッセージの表出	38	1555	532	288	266	221	207	35	6	4	4
15	d810 非公式な教育	59	1550	56	19	29	33	88	113	1212	4	4
15	d850 報酬を伴う雇用	87	1550	15	7	10	24	179	85	1230	4	4

上に示した表は、障害発生度が高くても、アセスメントの必要と判断されないことが多いことを示している。

1位「d4554 水泳」、1位「d480 交通手段として動物に乗ること」、3位「d4700 人力による交通手段の利用」、3位「d4752 動物の力による交通手段の操作」などは、障害発生度は非常に高いが、更にアセスメントが必要と判断されたケースは、ほとんど見られなかった。

3位「d315 非言語的メッセージの理解」、3位「d320 公式手話のメッセージの理解」、10位「d340 公式手話によるメッセージの表出」、15位「d335 非言語的メッセージの表出」など非言語的、あるいは手話によるコミュニケーションも、更なるアセスメントが必要と判断されにくい項目である。

調査の対象者が高齢者であるので、3位「d815 就学前教育」、3位「d820 学校教育」、3位「d830 高等教育」、11位「d135 反復(学習)」、11位「d825 職業訓練」、15位「d810 非公式な教育」などの教育に関連した項目も、アセスメントを必要と判断されたケースは、非常に限られていた。

同じく既に退職した人が大半を占める高齢者が調査の対象者なので、11位「d845 仕事の獲得・維持・終了」、11位「d865 複雑な経済的取り引き」、15位「d850 報酬を伴う雇用」などの仕事に関わる項目も、アセスメントを必要と判断されたケースは、非常に少ない。

今回の調査対象者には日常生活の支援を必要とする人は数多く含まれているが、15位「d5200 皮膚の手入れ」と15位「d5202 頭髪と髪の手入れ」という項目は、更にアセスメントが必要と判断されたケースが少ない項目である。

3. 4. 項目別の判定結果の一致率

以下に、項目別の判定結果の一致率を示す。表の観察数は、2人の評価者ともに「0なし、無視できる」から「4全くの障害」のいずれかを選んだケース数である。これは2人の評価者ともに「8判定できない場合」または「9判定の対象外」を選ばなかった対象者数と言い換えることもできる。

重み付けカッパは、数ランク程度のずれを考慮した判定の一致の程度を判定する指標であり、全ケースが一致なら1、偶然発生しうる一致（2人がなにも見ずに判定したときに一致する割合）程度の一致ならば0を示し、0.4~0.6が中程度の一致、0.6~0.8がかなりの一致、0.8~1.0がほぼ完全な一致を意味する。

重み付けをしないカッパは、完全一致のみを評価し、数ランクのずれを考慮する重み付けカッパより必ず低い値を示す。区切りを0-1においたときのカッパは、「1わずかな~4全くの障害」と判定したケースを「障害あり」グループとし、「0障害なし」と障害ありと判定した場合の一致率を評価した指標である。

身体機能全体では、重み付けカッパの平均が0.43、重み付けをしないカッパの平均が0.39、区切りを0-1においた場合のカッパが0.45であり、中位程度の一致率を示した。

a) 身体機能の一致率（カッパ）

身体機能	障害発生度	観察数	重み付けカッパ	重み付けしないカッパ	区切りを0-1間においたとき
全体			0.426693	0.38532	0.447148
第1章 精神機能					
全般的な精神機能					
b110 意識機能	20	761	0.5739	0.4169	0.5853
b114 見当識機能	32	745	0.6836	0.4892	0.6594
b117 知性の機能	40	736	0.6729	0.469	0.6818
b122 全般的な社会心理的機能	40	730	0.6562	0.4423	0.639
b126 気質と性格の機能	36	728	0.611	0.396	0.5727
b130 活力と欲動の機能	26	736	0.5096	0.3272	0.5287
b134 睡眠機能	22	754	0.4277	0.303	0.4375
個別的な精神機能					
b140 注意機能	38	738	0.6549	0.4325	0.5829
b144 記憶機能	42	739	0.6424	0.4321	0.5954
b147 精神運動機能	38	721	0.5357	0.3603	0.4732
b152 感動機能	31	745	0.5352	0.3494	0.4871
b156 知覚機能	25	739	0.6261	0.4263	0.6139
b160 思考機能	36	721	0.628	0.4172	0.5888
b164 高次認知機能	43	707	0.6125	0.4053	0.5465
b167 言語に関する精神機能	36	748	0.628	0.4495	0.594
> b167 言語受容	39	744	0.6203	0.398	0.5584
> b167 言語表出	43	742	0.5633	0.3642	0.5447
> b167 統合的言語機能	46	741	0.5875	0.3766	0.5039
b172 計算機能	49	737	0.6245	0.4024	0.5251
b176 複雑な運動を順序立てて行う精神機能	49	733	0.6422	0.4251	0.5767
b180 自己と時間経験機能	35	732	0.5775	0.3708	0.554

精神機能は、多くの項目が重荷付けカッパが0.6を超え、再現性の高い項目である。

BODY FUNCTIONS	障害発生度	観察数	重み付け カッパ	重み付け しない カッパ	区切りを 0-1間に 置いたと
第2章 知覚機能と痛覚					
視覚および関連機能					
b210 視覚機能	17	719	0.7655	0.6865	0.3737
> b2100 視覚	22	715	0.3696	0.2765	0.3264
> b2101 視野	20	701	0.4244	0.3216	0.4006
> b2102 視覚の質	20	680	0.3833	0.3061	0.3947
b215 目に付属する構造機能	18	587	0.3651	0.2995	0.3404
b220 目とそれに隣接する構造に関連した	12	712	0.3849	0.3258	0.4424
聴覚と前庭機能					
b230 聴覚機能	22	749	0.4854	0.3522	0.4685
b235 前庭機能	40	642	0.4291	0.3143	0.2992
b240 聴覚と前庭機能に関連した感覚	9	667	0.2714	0.2129	0.3935
その他の感覚機能					
b250 味覚	14	712	0.4544	0.3635	0.5503
b255 嗅覚	16	707	0.4374	0.3284	0.5166
b260 固有受容覚	38	715	0.5339	0.3527	0.4635
b265 触覚	23	716	0.4101	0.3156	0.4967
b270 温度と他の刺激に関連のある感覚機	20	726	0.4397	0.3343	0.5042
痛覚					
b280 痛みの感覚	22	738	0.3014	0.2288	0.3109
第3章 発声と発話の機能					
b310 音声の機能	13	761	0.5927	0.4457	0.5726
b320 構音機能	19	762	0.6046	0.4187	0.5707
b330 発話流暢性とリズムの機能	30	761	0.5518	0.394	0.5729
b340 代用性音声機能	32	721	0.5189	0.3323	0.4447
第4章 心血管系・血液系・免疫系・呼吸器系の機能					
心血管系の機能					
b410 心機能	21	669	0.457	0.3654	0.4196
b415 血管の機能	20	586	0.4159	0.3426	0.3249
b420 血圧の機能	23	716	0.3693	0.2822	0.3103
血液系と免疫系の機能					
b430 血液系の機能	17	586	0.3698	0.3035	0.3175
b435 免疫系の機能	14	571	0.3587	0.2827	0.3084
呼吸器系の機能					
b440 呼吸機能	13	697	0.3964	0.3387	0.3731
b445 呼吸筋の機能	13	673	0.4064	0.2713	0.3892
心血管系と呼吸器系の付加的機能と感覚					
b450 その他の呼吸機能	13	764	0.3544	0.306	0.388
b455 運動耐容能	27	673	0.3689	0.2713	0.362
b460 心血管系と呼吸器系に関連した感覚	22	701	0.3447	0.2743	0.3215
第5章 消化器系・代謝系・内分泌系の機能			Kappa	weighted kappa	
消化器系に関連する機能					
b510 摂取機能	15	764	0.4205	0.5809	0.568
b515 消化機能	12	710	0.3045	0.3841	0.416
b520 同化機能	11	668	0.3381	0.3781	0.409
b525 排便機能	28	762	0.3413	0.4756	0.525
b530 体重維持機能	16	739	0.264	0.3434	0.362
b535 消化器系に関連した感覚	13	690	0.3028	0.3555	0.356
代謝系と内分泌系に関連する機能					
b540 全般的代謝機能	13	623	0.3361	0.3867	0.428
b545 水分・ミネラル・電解質バランスの機	14	670	0.3387	0.4164	0.454
b550 体温調節機能	12	745	0.288	0.3595	0.396
b555 内分泌腺機能	12	528	0.3159	0.3437	0.390

第4章 心血管系・血液系・免疫系・呼吸器系の機能の項目と、第5章 消化器系・代謝系・内分泌系の機能の項目の多くが、重み付けカッパ0.4以下であり、再現性が低い。

BODY FUNCTIONS		障害発生度	観察数	重み付け カップ	重み付け しない カップ	区切りを 0-1間に 置いたと
第6章 尿路・性・生殖の機能						
尿路機能						
b610	尿排泄機能	15	695	0.4093	0.4583	0.473
b620	排尿機能	32	752	0.4212	0.5813	0.605
b630	尿路機能に関連した感覚	12	684	0.2618	0.3738	0.337
性と生殖機能						
b640	性的機能	66	5	0.375	0.4444	0.615
b650	月経機能	77	388	0.1283	0.1331	0.140
b660	生殖機能	98	563	0.7368	0.6995	0.582
b670	性と生殖機能に関連した機能	22	444	0.4295	0.4829	0.479
第7章 神経筋骨格と運動に関連する機能						
関節と骨の機能						
b710	関節可動性の機能	38	761	0.3421	0.4877	0.399
b715	関節の安定性の機能	29	752	0.2712	0.4139	0.321
b720	骨の可動性の機能	39	761	0.3396	0.4815	0.423
b730	筋力機能	45	744	0.327	0.4628	0.350
b735	筋緊張の機能	30	737	0.3082	0.4416	0.385
b740	筋肉の耐久性機能	49	728	0.2764	0.3808	0.292
運動機能						
b750	運動反射機能	30	715	0.3035	0.4458	0.398
b755	不随意的運動反応機能	28	751	0.3074	0.4238	0.408
b760	随意的運動反射機能	41	748	0.2923	0.4523	0.351
b765	不随意運動反応機能	17	745	0.2561	0.3392	0.338
b770	歩行パターン機能	54	692	0.218	0.6464	0.497
b780	筋と運動機能に関連した感覚	33	759	0.288	0.3462	0.262
皮膚及び関連する構造の機能						
皮膚の機能						
b810	皮膚の保護機能	16	736	0.2738	0.403	0.446
b820	皮膚の修復機能	20	767	0.288	0.376	0.421
b830	その他の皮膚機能	17	747	0.2826	0.3673	0.388
b840	皮膚に関連した感覚	18	728	0.2509	0.3398	0.338
毛と爪の機能						
b850	毛の機能	15	761	0.1982	0.2992	0.294
b860	爪の機能	12	765	0.2557	0.347	0.356

第7章 神経筋骨格と運動に関連する機能は、全ての項目で重み付けカップが0.4を下回り、再現性が低い。皮膚及び関連する構造の機能も全ての項目が0.3を下回り、極めて再現性が低い。

b) 活動と参加の一致率 (カッパ)

以下に活動と参加の項目毎の一致率を示す。活動と参加全体では、重み付けカッパの平均が 0.56 (身体機能:0.43)、重み付けをしないカッパの平均が 0.38 (身体機能:0.39)、区切りを 0-1 においた場合のカッパが 0.48 (身体機能:0.45) であり、重み付けカッパでやや高い値を示した。重み付けをしない場合は、身体機能と同程度の一致率を示した。

活動と参加	障害発生度	観察数	重み付けカッパ	重み付けしないカッパ	区切りを0-1間に置いたと
全体平均(活動と参加)			0.55708	0.37467	0.48306
第1章 学習と知識の応用					
目的のある感覚的経験		n	kappa(wgt)	kappa	kappa0-1
d110 注意してみること	31	753	0.6195	0.4343	0.6213
d115 注意して聞くこと	32	752	0.6345	0.4247	0.6151
基本的学習					
d130 模倣	39	736	0.6427	0.4641	0.5882
d135 反復	42	720	0.6641	0.4786	0.5692
d140 読むことの学習する	47	699	0.6632	0.4828	0.5983
d145 書くことの学習する	52	685	0.6099	0.4089	0.5496
d150 計算の学習する	55	677	0.5932	0.3868	0.4808
d155 技術の習得	57	667	0.5748	0.3804	0.4548
知識の応用					
d160 注意を集中すること	39	751	0.621	0.4111	0.5775
d163 思考	43	726	0.6238	0.4172	0.585
d166 読むこと	44	737	0.6575	0.4651	0.5987
d170 執筆	55	728	0.5749	0.3711	0.4664
d172 計算	56	723	0.595	0.3798	0.4525
d175 問題解決	58	699	0.6317	0.4266	0.5507
d177 意思決定	43	742	0.6194	0.4283	0.5967
第2章 一般的な課題と遂行要求					
d210 1つの課題の遂行	47	720	0.6433	0.4436	0.5837
d220 複数の課題の調整	60	707	0.59	0.3807	0.4821
d230 日課の実行	48	733	0.6519	0.4543	0.5847
d240 ストレスとその他の心理学的要求への	52	652	0.5846	0.3832	0.504
第3章 コミュニケーション					
メッセージの理解					
d310 話し言葉のメッセージの理解	26	753	0.6028	0.4214	0.5492
d315 非言語的メッセージの理解	36	733	0.5817	0.3588	0.5124
d320 公式手話のメッセージの理解	59	19	0.6286	0.3759	0.2821
d325 書き言葉のメッセージの理解(読むこと)	40	733	0.6358	0.432	0.5692
メッセージの表出					
d330 話すこと	31	758	0.6208	0.4269	0.5636
d335 非言語的メッセージの表出	38	729	0.5785	0.3669	0.5115
d340 公式手話によるメッセージの表出	63	16	0.7377	0.4839	0.4056
d345 書き言葉によるメッセージの表出	56	719	0.5856	0.3794	0.4739
会話並びにコミュニケーション用具・技術の利用					
d350 会話	33	756	0.6273	0.4358	0.588
d355 議論	58	669	0.6162	0.4248	0.4735
d360 コミュニケーション用具および技法の利	51	726	0.6775	0.4681	0.6131

第1章 学習と知識の応用、第2章 一般的な課題と遂行要求、第3章 コミュニケーションともに多くの項目の重み付けカッパが 0.6 を超え、再現性が高い項目群である。